

〔(公) 病害虫防除試験 (農林水産部食料安全課所管)〕

世界自然遺産登録地に適した侵入病害虫等管理技術の検討

～母島における害虫カメムシ類2種の再発生ならびにケブカニセノメイガの初発生～

大林隆司・藤本周一*

(小笠原農セ・*営農研修所)

【要 約】母島で2013年9月頃からトウガンやニガウリなどでアシビロヘリカメムシが、2014年2月にはカラシナでミナミアオカメムシとケブカニセノメイガが発生した。父島では未発生だった。カメムシ類は再記録であり、いずれも台風で運ばれてきた可能性が高い。

【目 的】

2014年2月、母島の圃場で大型の黒色のカメムシが採集され、アシビロヘリカメムシと判明した。聞き取りの結果、本種は2013年9月頃からトウガンで発生し、その後もニガウリなどで目撃されていた(図1)。本種はウリ科野菜や柑橘類、パッションフルーツの害虫であり、奄美大島以南に分布し、国外では東南アジア、太平洋諸島などに分布するが、2004年に長崎県、2013年に山口県、伊豆大島で記録された。同じ時期に別の圃場で別種のカメムシと未知のメイガが多発し、それぞれミナミアオカメムシとケブカニセノメイガと判明した(図2, 3)。前者は熱帯原産で様々な野菜や果樹の害虫であり、本来の分布域である沖縄、九州、四国、紀伊半島から分布が北方に拡大しつつあり、2013年には伊豆大島で記録された。後者はアブラナ科野菜の害虫で、1980年代以降南西諸島で発生し、その後、関西、東海、伊豆諸島で発生している。カメムシ2種は過去に小笠原から記録があり再記録だが、メイガは初記録である。これらの発生状況を調査し、防除対策に役立てる。

【方 法】

母島・父島を定期的に巡回し(母島は2014年2, 3, 5, 10, 11月, 父島は2014年2～11月に毎月)、発生状況・加害状況を調査した。

【成果の概要】

1. アシビロヘリカメムシは、母島ではニガウリ、キュウリで2014年10月まで散発的に発生が確認された。父島のニガウリなどでは発生が確認できなかった。
2. ミナミアオカメムシは、母島では2014年3月以降は発生が確認できず、父島では発生が確認できなかった。
3. ケブカニセノメイガは、母島では2014年2月以降は発生が確認できず、父島では発生が確認できなかった。
4. まとめ: アシビロヘリカメムシは、小笠原では1930年代以降記録が無く、80年ぶりの記録となる。ミナミアオカメムシは、1990年代以前は分布が確認されていたが、それ以降はほとんど記録が無い(外来種のトカゲ、グリーンアノールの捕食によりほぼ絶滅した可能性が高い)。ケブカニセノメイガも含め、これらの主な加害植物である野菜苗を島外から導入する可能性は低く、さらに、2013年8～10月頃に伊豆大島でもこれらのカメムシが初記録されたこと、また、2012年と2013年は日本(小笠原)に接近した台風が多かった(図4)ことから、これらは台風により島外から運ばれてきた可能性がある。

(ケブカニセノメイガは蛾類通信(271): 524-525 (2014) [日本蛾類学会] 掲載済)

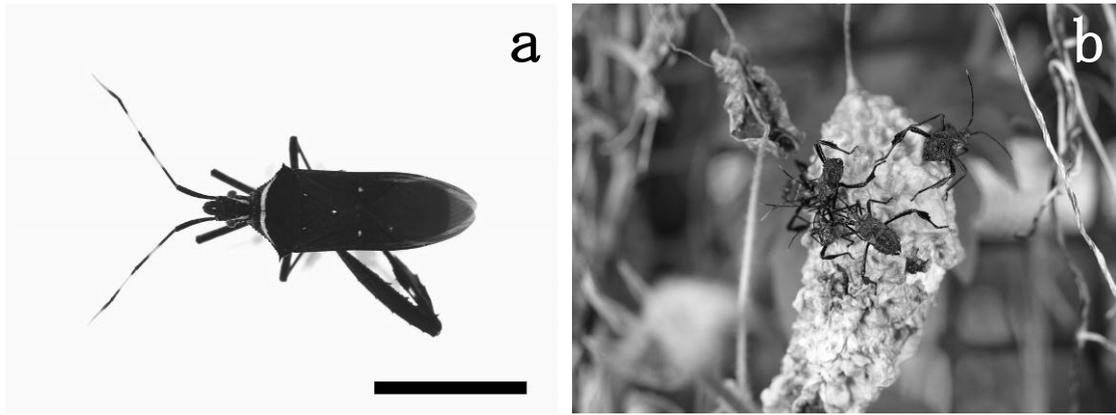


図1 アシビロヘリカメムシ

a : 2014年2月17日に母島・評議平で採集された個体 (スケールは10mm), b : ニガウリ果実に集合し吸汁する幼虫 (2014年5月13日, 母島・沖村, 撮影: 環境省・児嶋 翼氏)。

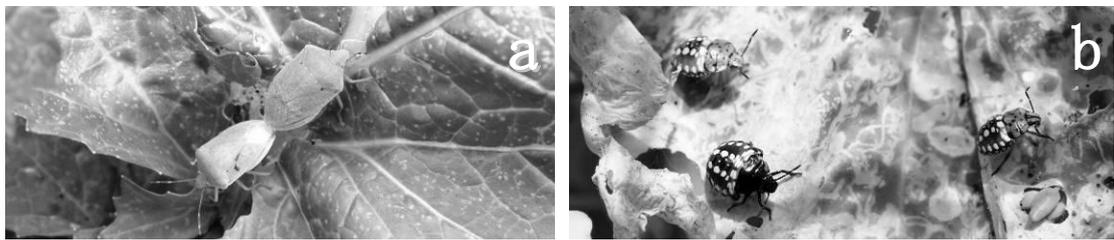


図2 ミナミアオカメムシ (カラシナ上)

a : 成虫 (2014年2月10日, 母島・評議平), b : 幼虫 (2014年3月7日, 母島・評議平)。

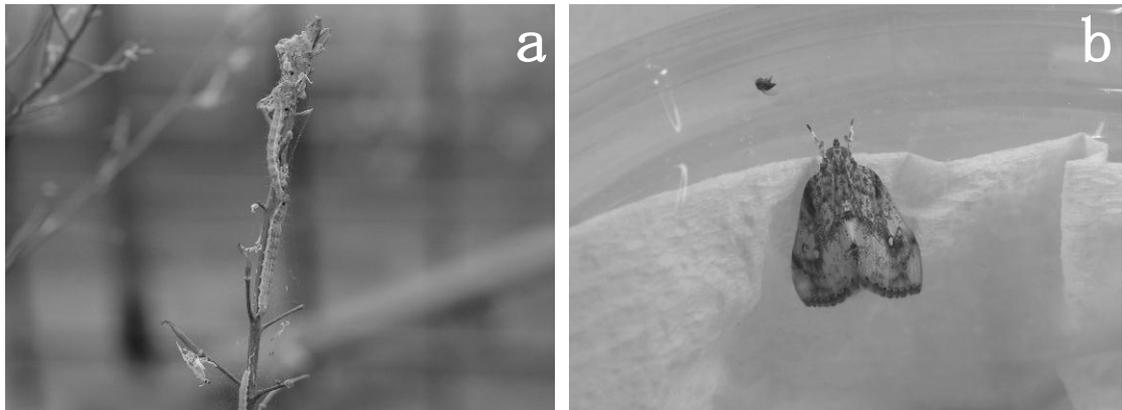


図3 ケブカセノメイガ (カラシナ上)

a : 幼虫 (2014年2月10日, 母島・評議平), b : 成虫 (2014年3月3日, 飼育羽化)。

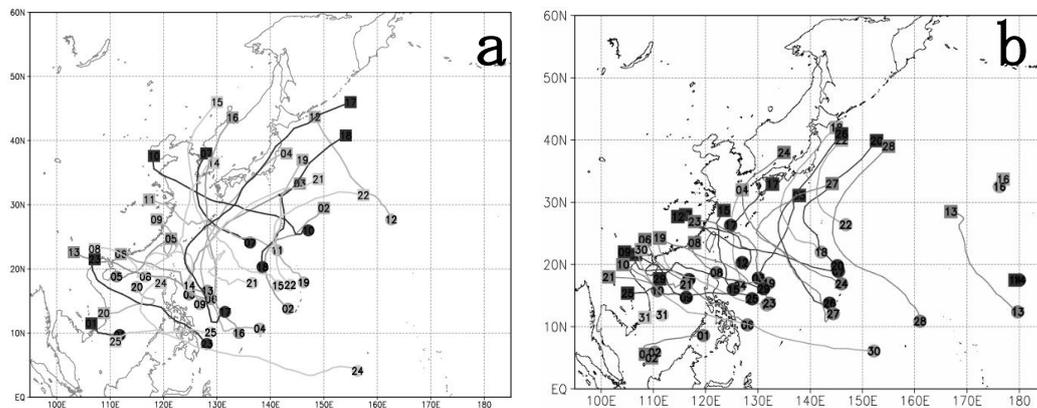


図4 2012年, 2013年に日本に接近・上陸した台風 (気象庁による)

a : 2012年 (25個), b : 2013年 (31個), 番号は号数, ● : 発生地点, ■ : 消滅地点。